



松柏中学校アーカイブ通信 第18号 2024年9月24日発行

きらめきタイム「アーカイブコース」 責任者：山村 好克
(タイトルの背景は旧校舎)

「閉校記念誌」に関して

注文の申込み締切日が迫ってきました。八幡浜市内はもちろん、県外や、何と海外からも注文の連絡が入っています。県外にいる同級生の分も購入したいと、追加注文も入っています。ありがとうございます。26日が締切になっています。

一方、「記念誌」の編集の方ですが、約230ページの内、3分の2以上を占める卒業生名簿と78年分の学校沿革史の部分は、データを入力し、印刷会社に入稿が入りました。テーマ別のコーナーやエピソードなどの「こだわり部分」を11月3日に予定している文化祭の終了までを拾って、編集していきます。

卒業生からの連絡・熱い想いを通して

情報収集の醍醐味、つながりのすごさについては、今までも何度も紹介してきました。そして9月に入って、次のような関わりがありました。偶然が偶然を呼ぶとともに、母校への熱い想いを受け止めています。



① 武田志津さん (1977年度卒業・松尾) 【写真右】

11号で紹介した科学者・武田さんですが、県外在住でもあり、「閉校記念誌」の発行について、8月末にメールで連絡をしました。数日後、購入申込みの連絡が入り、山村宛にメールが届きました。おおよそのメッセージを紹介します。

(前略) アーカイブ通信に掲載くださり、大変光栄に存じます。母校の名前がなくなることは大変残念に思いますが、このようにアーカイブ記録に残してくださり、大変ありがたく思います。とともに、時代の流れを実感する次第です。私の心の中では永遠に松柏中学校で過ごした日々の思い出が残ります。卒業生みんなも同じ思いでいることと存じます。(中略) 松柏中学校の有終の美を飾ってくださるよう、お願いいたします。

② Aさん (1954年度卒業・松谷)

「大阪で会社を経営している者だが、松柏中学校がなくなると聞いて、話を聞こうと思って電話をしました。(松柏中) 1期生です。」18日のお昼頃、職員室にかかってきた電話です。お話を聞く中で、「松柏中学校の校舎ができたときの頃の卒業生」ということで、1954年度の卒業生(8期生)だということが分かりました。「松谷に住んでいて、1年生まで愛宕中に通っていた。2年生から松柏中へ移動した。」で、千丈小での間借りから、今の地に校舎が建てられ、収容能力が向上したために、愛宕中との校区変更が行われたときの方だと分かりました。



【1954年・運動会で3Bの仮装】

「私の名前は〇〇で、漢字で書くと□□になるので、正しく記録されているか不安で…。」こう話されると、すぐに卒業生台帳のデータを傍らに置いて確認し、このことを伝えました。すると、「同級生にBというのがあって、今も連絡を取り合っている。駅前ですよ。」「えーと、そうするとBさんというのは、今の松中生のおじいさんですね。」「おー、孫が今の松柏中にいるのか。他にも同級生にはCやDがいて…。私は3年B組やった。」「みなさんの名前がありますよ。」と、ここまでお伝えしたとき、台帳の開いたページの下に、私の叔父の名前を見つけました。

「私の叔父の名前があるのですが、山村■■■■って御存知ですか。」と尋ねてみました。「覚えとるよ。お互い悪ガキで、八高の横の草むらとかでケンカをした。中学を卒業して板前の修業に入り、松山にお店を出しとったなあ。そのお店に行ったことあるよ。」いかがですか。本当に驚きです。「ちなみにお姉さんもおったなあ。そろばんが得意で。」これもズバリです。得意なそろばんを認められて、市内の会社の会計を担当していた叔母の名前まで出るなんて。最後にこれです。「山村君は松谷に住んどったなあ。」除籍謄本などを使って先祖をずっと調べていた私は仰天です。八幡神社の近く(松蔭町)に住んでいて、なぜ松柏中学校卒業だったのか。新しい事実(実は松谷に住んでいたこと)が判明するとともに、次なる謎が生まれました。